

A hand is shown in silhouette, holding a bright, multi-pointed star against a dark blue, starry night sky. The star has a prominent lens flare effect. The hand is positioned in the upper right quadrant of the image.

EY Innovative Startup 2024 Factbook

ホットトレンド 9分野 |
表彰企業 15社 |



EY Innovative Startup 2024

イノベーションを通じて社会に
新たな価値を提供するスタートアップ

EY Innovative Startupは、今後著しい成長が見込める
ホットトレンド9分野において、イノベーションを起こそうとする
スタートアップを表彰する制度です。成長性、革新性、社会性の
3つの観点から審査し、2024年3月19日に表彰企業を発表しました。
世界を変える新たな価値を提供する15社を紹介します。

EY新日本有限責任監査法人
EY Innovative Startup 運営事務局

2024年4月
24hour IT People公開日現在

*本誌は「24hour IT People」の特集ページなどを編集したものです。

Brain Tech	脳×テクノロジーで 人の感性を可視化し、 人に優しい未来を	株式会社SandBox	04
Circular Economy	サステナブルな プロダクトが世界を変える	EF Polymer株式会社	05
Energy	持続可能なエネルギーを 社会に実装する	株式会社パワーウェーブ	06
		株式会社Yanekara	07
Marine Tech	激変する海洋環境で、 持続可能な食料生産を	株式会社さかなドリーム	08
Nuclear Fusion	世界を変える 次世代技術への挑戦	株式会社EX-Fusion	09
		京都フュージョニアリング株式会社	10
		株式会社Helical Fusion	11
Parent Tech	社会に必要不可欠な 「子育て×テクノロジー」 サービス	株式会社iiba	12
Robotics	可能性の先を切り拓く 技術革新	ドーナッツ ロボティクス株式会社	13
		株式会社MUSE	14
		株式会社LexxPluss	15
Space	"宇宙"に手が届く、 世界の実現	株式会社アークエッジ・スペース	16
		Letara株式会社	17
web3	分散化された インターネット経済	株式会社pafin	18

15 Winners

株式会社SandBox

人の脳を読み解き潜在能力を開花させる

<https://www.sandbox-inc.com/>



ブレインテック(脳技術)を軸として、脳波によるヒトの状態/感情分析ソリューションを展開。

主に消費者向け商品を扱うエンタープライズ企業(食品/消費財/製薬/自動車/ゲーム等)に提供し、研究開発を支援。

従来の消費者調査よりもさらに深く検証し、より良いモノづくりができる世界観へ。



**御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか?**

脳は宇宙と並ぶ、人類のフロンティアです。ヒトは生きている限り、脳は活動を行っています。適切に手足を動かせるのも、感情を持つことも、すべて脳を起点に始まっており、脳を知ることはヒトを知ることだといえます。

あらゆる産業において、ヒトが関わらないことはありません。特にToC向けの商品/サービスを扱っている会社において顕著になっていきます。「より良い商品/サービスを提供したい」と、多くの企業が考え実践をしていますが、そこにはハードルがあります。

ユーザー自身にアンケート・インタビュー等でヒアリングを行うのが一般的な手法になりますが、抽象的な感覚は言語化ができないこと、質問の仕方によって結果が変わってしまうこと、ヒトによって点数の定義が異なることなど、一律に評価を行うには困難なことが多くあります。

当社では、脳の活動を観測することでそれらの問題を解決し、ユーザーを深く知る機会・ソリューションを提供しています。

当社の技術が普及することで、ネガティブな体験をすることが減り、ユーザーにとっても企業にとっても豊かな社会へと繋がると確信しています。



代表取締役 CEO
菊地 秋人



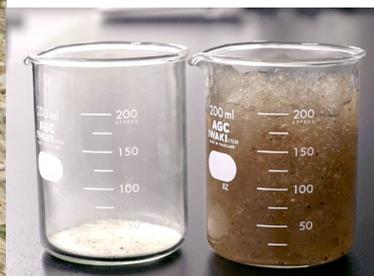
EF Polymer 株式会社

最先端技術で干ばつによる世界の水不足問題を解決する

<https://ja.efpolymer.com/>



果物などの不可食部分をアップサイクルし、完全生分解性で農業から衛生用品など様々な用途で活用できる「オーガニック超吸水性ポリマー」を開発。テクノロジーで紛争や環境破壊の原因となる「干ばつ」と「ゴミ」の問題に解決策を提示し、生態系の未来を潤します。



御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか？

We want to help the millions of farmers who are facing the water shortage. We want to provide them with a sustainable solution through EF polymer so they can grow their crop in 40% less water, 20% less Fertilizer and improve the yield. We want to bring happiness in the farmers' life so they do not struggle and lose their crops due to water shortage.



代表取締役 CEO

ナラヤン・ラル・ガルジャー

株式会社Yanekara

屋根からエネルギーを自給できる社会へ

<https://yanekara.jp/>



EV充電コントローラー「YaneCube」と複数台EVに特化した充放電器「YaneBox」を開発・販売。

「YaneCube」はEV充電コンセントに取り付けるだけで、自動充電制御を行い、電気料金削減を実現します。「YaneBox」はEVを蓄電池として使うことで拠点で太陽光発電を最大限活用することができます。



御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

「地球にすみ続ける」を達成するために、地球の循環の中で生きていく。「屋根」単位でエネルギーを自給自足し、それを地球規模に広げていきたい。

そのためのキーデバイスは屋根置き太陽光発電とEV(電気自動車)となる。モビリティ用途で入ってくる巨大な蓄電池であるEVを用いて、エネルギーを自給自足できる仕組みを作る。そこで生まれた蓄電リソースをクラウドから群制御して巨大な蓄電池として機能させて、社会全体でも太陽のエネルギーを余さず使い切る。再生可能エネルギー普及とモビリティの脱炭素化を進める。



代表取締役
松藤 圭亮

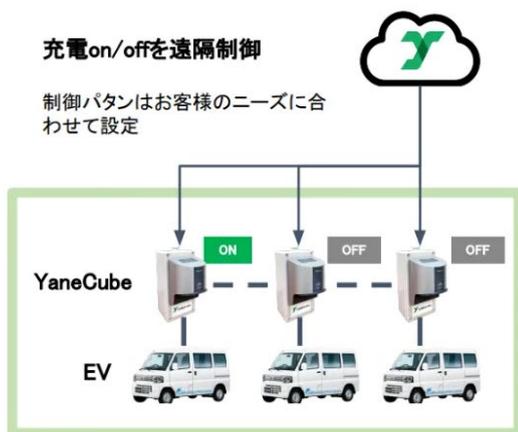


代表取締役
吉岡 大地

YaneCubeで充電を制御

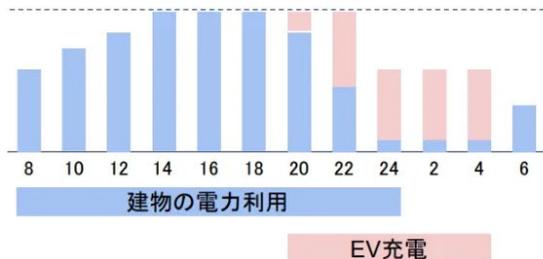
充電on/offを遠隔制御

制御パターンはお客様のニーズに合わせて設定



現在の契約電力をキープすることが可能

現在の契約電力



YaneCubeで充電制御すれば電気代上昇を抑制可能

株式会社パワーウェーブ

充電という概念がない社会をつくる

<https://powerwave.co.jp/>



弊社は、電界結合方式を用いた新しいワイヤレス電力伝送技術を基礎に、電動モビリティに対し停車時の広範囲自動充電や走行中の動作中給電を可能とする技術を提供します。走行中・停車中の無線給電により、電動化社会において「充電をする」という概念を無くすことを目指しています。また、モビリティと発電所・電力系統がワイヤレスでつながり続けることで、電力の需要側での制御を可能とし、エネルギー提供の最適化に貢献します。



御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

PowerWaveは次世代のワイヤレス電力伝送技術であらゆるアプリケーションへのエネルギー提供を最適化し、世界のカーボンニュートラルを実現させていきたいと考えています。

弊社は、電界結合方式を用いた新しいワイヤレス電力伝送技術を基礎に、電動モビリティに対し停車時の広範囲自動充電や走行中の動作中給電を可能とする非接触給電システムを開発・製造しています。走行中・停車中のあらゆるシーンで安定して使えるこの無線給電技術により、カーボンニュートラルを実現するために、モビリティを中心とした電動化を給電システムから支えます。

給電システムがインフラとして定着することで、ユーザーは「充電をする」という行為の必要がなくなり、アプリケーション提供者はバッテリー軽量化やコストカットが可能となります。そして、モビリティと発電所・電力系統がワイヤレスでつながり続けることで、電力の需要側での制御を可能とし、エネルギー提供の最適化にも貢献していくことを目指しています。

我々は、この動きながらのワイヤレス給電技術で、線に制限されない新しいインフラ(当たり前)を実現していきます。



代表取締役
阿部 晋士



取締役
種田 憲人

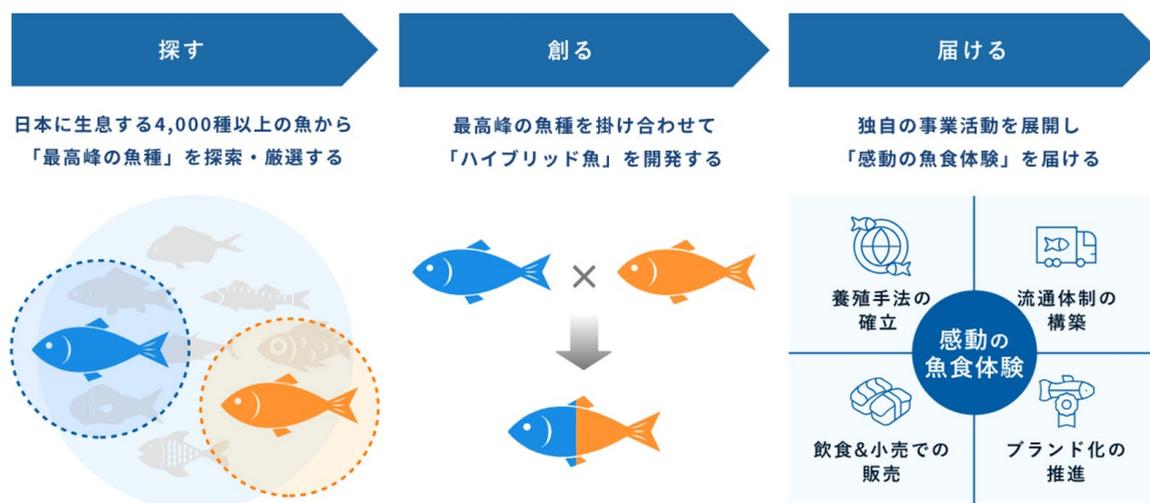
株式会社さかなドリーム

水産業の強みをつなぎ合わせ、世界一うまい魚をつくる

<https://sakana-dream.com/>



さかなドリームは、革新的な生殖幹細胞操作技術「代理親魚技法」を用いて、全く新しい養殖魚を開発する水産スタートアップです。日本に生息する4,000種を超える魚種の中から、抜群に旨い魚だけを育種・養殖することで、未踏の味わいを実現すると共に、温暖化が進む海洋環境にも対応できる次世代の養殖魚を生み出します。



御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

従来魚の品種改良は、成長性や耐病性の改善が主な目的となってきましたが、当社の共同創業者である吉崎悟朗(東京海洋大学教授)が開発した「代理親魚技法」を用いることで、食の本質的な価値である「美味しさ」に焦点を当てた品種改良を行うことができます。また、養殖魚は農作物や畜産物と異なり、生け簀から逃亡すると容易に野生化し得るため、異なる品種を掛け合わせる「ハイブリッド化」によって、先天的に生殖能力を持たない当社独自の養殖魚を開発することで、高度な品種改良と遺伝子攪乱リスクの抑制を両立します。近年は「地球沸騰化」とも形容される海水温の上昇によって、水産業は大きな転換期を迎えています。天然魚であれば自身が好む水温の

水域まで逃げられますが、養殖魚ではそうもいかず、結果的に魚病被害や魚の酸欠死が増加しているのが現状です。そこで当社が「美味しさ」、「高水温耐性」、「先天的不妊」を兼ね備えた次世代養殖魚を生み出すことで、人生を変えるほど美味しい魚によって食の感動を提供すると同時に、養殖業を人と魚の両方にとって持続可能にしていきたいと考えています。



代表取締役 CEO
細谷 俊一郎

株式会社EX-Fusion

レーザー核融合によって、新しい未来のエネルギー基盤を築く

<https://www.ex-fusion.com/>



当社は、「光の究極の可能性、レーザー核融合によるエネルギー革命と産業の創出」をミッションに掲げる大阪大学発のスタートアップ企業です。民間資本を集め、高い開発リスクを受け入れ、実用化に必要な技術開発を加速します。また究極の光技術であるレーザー核融合を目指す過程で、新しい国内産業の創出にも寄与します。

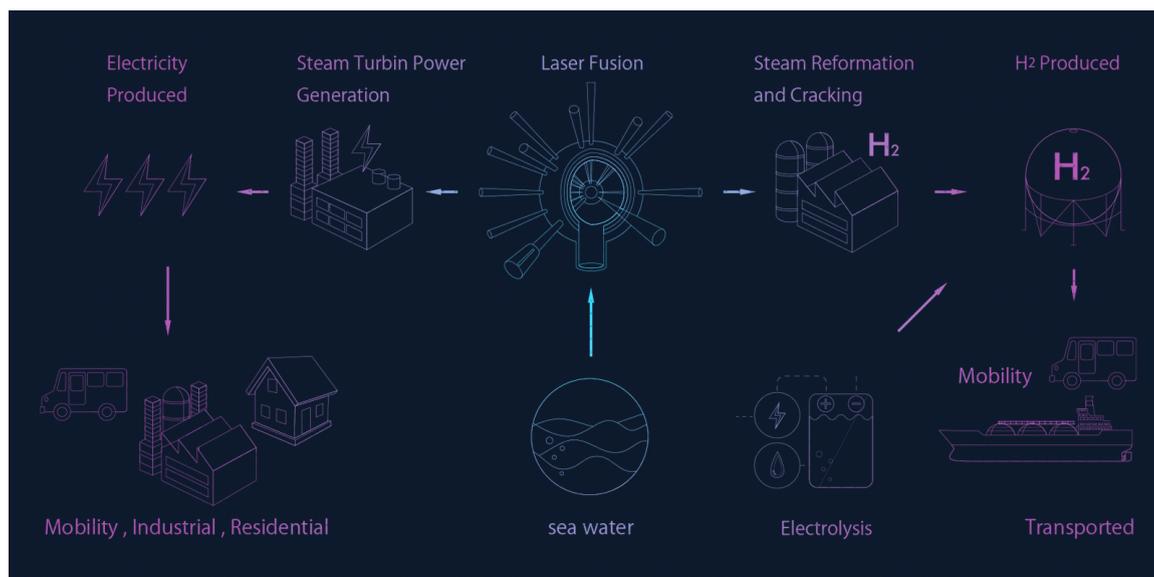


御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

私たち株式会社EX-Fusionは、レーザー核融合技術によるエネルギー革命を通じて、世界のエネルギー問題を解決し、持続可能な社会の実現を目指しています。この技術は、無限に近いクリーンエネルギー源として機能し、地球温暖化や環境破壊といった現代の課題に対する答えとなります。また、私たちの技術開発は新たな産業を生み出し、多くの雇用機会を創出することで経済にも大きな影響を与えます。これらの変化を通じて、より持続可能で豊かな未来を世界中の人々に提供したいと考えています。



代表取締役 CEO
松尾 一輝



京都フュージョニアリング株式会社

フュージョンエネルギーで、地球の課題を解決する

<https://kyotofusioneering.com/>



京都フュージョニアリングは、フュージョンエネルギープラント関連のシステム・装置の開発およびプラントエンジニアリングを手掛けています。先端核融合工学分野において世界有数の技術力を有しており、英国原子力公社を始め全世界の核融合研究開発機関・企業を顧客に持ちます。

日本のものづくり力を結集し、革新的なエンジニアリングソリューションを世界に提供することで、人類に究極のクリーンエネルギーを提供し、新たな世界市場を創出することを目指しています。



御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

脱炭素の切り札と言われるフュージョンエネルギーは、長年にわたる研究を経て、現在は民間も参入し、世界中で研究開発が進んでいます。従来は資源を持つものがエネルギーを手にしていましたが、フュージョンエネルギーは燃料となる材料が海水からほぼ無尽蔵に取り出せることから、技術があればエネルギーを手にすることができるようになり、世界中に大きなパラダイムシフトをもたらします。

このエネルギーの大変革の一端を担うべく、京都フュージョニアリングはフュージョンエネルギープラントの周辺装置・システムの開発、そしてプラントエンジニアリングの領域で事業を展開し、国内外の研究機関、企業をはじめとするパートナーと共に、フュージョ

ンエネルギーの早期実現に向けて取り組んでいます。当社を支えているのは、日本がこれまでに培ってきた高い技術力です。フュージョンエネルギー実現に向けた国際プロジェクトにおいても日本の技術力が大きく貢献しているほど、日本は優れた技術を持っているのです。この素晴らしい技術を日本から世界に羽ばたかせ、そして世界で日本の存在感を示していくことがフュージョンエネルギーの実現につながり、ひいてはあらゆるエネルギー問題を解決に導くと信じています。



共同創業者 兼
取締役会長
長尾 昂



共同創業者 兼
代表取締役社長
小西 哲之

株式会社Helical Fusion

人類で初めて核融合を社会実装し、エネルギー問題を解決する

<https://www.helicalfusion.com/>



Helical Fusionは世界初の商用核融合炉の実現を目指す会社です。

CO2フリーで、安定・安全な核融合エネルギー（フュージョンエネルギー）を実現することで、人類を一段階アップデートするようなインパクトを起こします。これまで長きにわたって日本で培われてきた技術を元に、2030年代前半に発電初号機を稼働させることが目標です。



御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか？

我々は、人類と地球が100万年先も安心して共生できるような未来をつくりたいと考えています。

グローバルに見ればまだまだ人口が増え、必要なエネルギーも増加します。他方で地球温暖化防止・抑制のために脱炭素を進める必要があり、現状この板挟みの中で人類は最適解を見つけられずにいます。核融合はこの問題を抜本的に解決しうる技術です。

核融合は太陽の内部で起こっている現象で、膨大なエネルギーを放出します。

我々は、これを人工的に起こしてエネルギー源そのものを生み出そうとしています。

核融合は、CO2を出さず、燃料を海から採ることができ、安全に運転できる夢のようなエネルギーです。

実際これまで「夢のエネルギー」と呼ばれ続け、本格的に研究が始まってから70年程度商用化には至らずにここまでできました。

ただ、たゆまぬ研究開発のおかげで実用化まであと一歩のところまでできています。

その最終段階を担うのがHelical Fusionです。

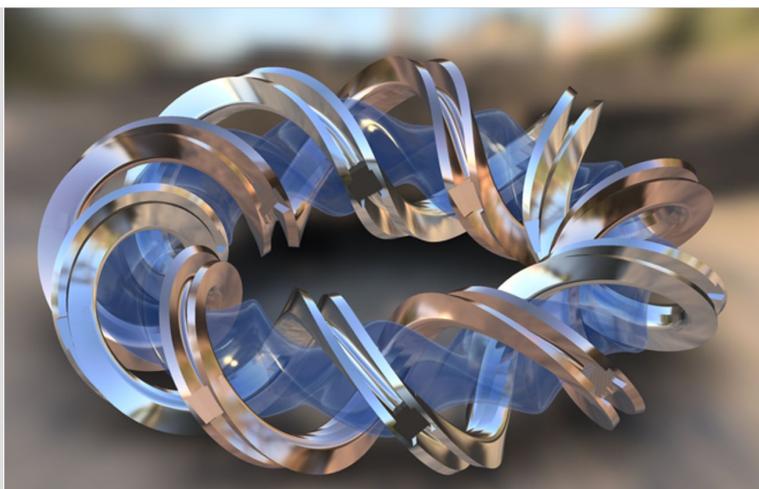
エネルギーの確保に汲々とせず、安心して、地球を痛めずに暮らしていける未来。

Helical Fusionが目指す未来は、人類と地球の新しい共生関係です。



代表取締役
田口 昂哉

人類は
核融合で進化
する



株式会社iiba

子育ての新たなインフラを構築し、子育てしやすい社会をつくる

<https://corporate.iiba.space/>



iibaは、評価経済×トークンエコミーを基盤とした子育て系口コミ情報プラットフォームです。行動記録でポイントがもらえる地図アプリであるiibaを用いて、ポイントエコミーを子育てと結びつけ、これまで目に見えなかった子育ての経験やノウハウに現実的な価値をつけていきます。ユーザーは移動・行動の記録をつけることや、サービスに対する子育て目線での口コミをアプリ上でシェアすることでポイントを得ることができ、企業は子育てユーザーの動向や思考などのデータを得ることができるため双方にとって効果的なデータエコミーを構築することが可能です。データの蓄積により、子育てユーザーに最適化したマップが出来上がるとともに、地域での消費を促す行動デザインや、経済の発展に貢献することができます。



iiba

ママたちの「欲しい！」から生まれた
子連れに良い場所がわかるMAPアプリ



御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか？

「iiba」を中心としながら子育てにまつわる様々な課題を解決し、子育てしやすい社会をつくりたいと考えています。

子育て世代が必要とする支援は、行政や民間など、さまざまところから手が差し伸べられています。しかし、子育て世代は常に忙しい。「孤育て」に苦しみながら、時間貧困に陥り、支援に気づかず悲観的になっています。

少子化は今や全員が向き合うべき大きな社会課題です。親の負担や、悩む時間をテックで解決し、子育て世代が抱える大きな負荷を取り除くことができたとき、社会の子育てに対する考え方も変わっていくと考えています。現在は子育てと聞くと「大変そう」「つらそう」というイメージを持つ方も多いですが、子どもを産むといいことばかりだな、とみんなが前向きになれる社会を実現したいと思っています。

代表取締役
逢澤 奈菜



ドーナツ ロボティクス株式会社

ロボットと生成AIで世界を変える

<https://www.donutrobotics.com/>



「高性能AIを搭載したロボットで人の繋がりを増やし、時代を一步進める。」

生成AIを使用した自然なコミュニケーションが取れる小型ロボット「cinnamon」や、接客や施設案内を行う自動走行ロボット、生成AIが会議に参加する「donut AI 会議システム」など、ロボットや汎用AIの開発などを行っております。



御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか？

弊社の「donut AI」を日々の生活、仕事、コミュニケーション相手として、世界中の人が、当たり前のように毎日使って、日常生活を送る世界をイメージしています。

自宅では、家事を手助けしてくれるホームロボットと一緒に生活し、町のカフェでは、donut社ロボットがコーヒーをふるまい、空港では、荷物を運びながら案内をしてくれたり。

私たちは、高性能AIを搭載したロボットが、社会生活をより豊かにしてくれると確信し、開発を進めてまいります。

代表取締役 CEO
小野 泰助



株式会社MUSE

店舗に最適化したロボットで、人とロボットが共存できる社会へ

<https://www.muse-gr.com/>



ロボットとデータ活用を組み合わせることで小売店舗の人手不足解消と売り場活性化を実現するプラットフォームを開発しています。

品出しから売り場画像などの店内データの収集までマルチユースで行うストアロボット『Armo』、そしてArmoが収集した売り場画像を閲覧、解析できる『Eureka Platform』というサービスを展開します。



御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか？

ロボットはこれまで、完全自動化や無人化を目的として様々な製品が開発されてきました。もちろん人手不足の解消や効率的なオペレーションのために、省人化という考え方は重要です。しかし人を排除するようなロボットが世の中にあふれたとき、それでもロボットは歓迎されるでしょうか。私たちは、本当に社会が必要としているのは、ロボットを使う人々がどう変わるか、ではないかと考えています。ロボットを使う「人」に光をあて、本来の人間の力(創造性、ひらめき、優しさ、コミュニケーション)にインスピレーション

を届ける、そんなロボットを開発したいと考えています。

私たちが開発する小売店舗向けのロボットは、オペレーションを現場の方が専門的な知識を必要とすることなく創意工夫して活用することで、より最適な働き方につなげたり、売り場データの可視化によって流通業界全体の人々にインサイトを届けるとともに、働き方を変えたい、と考えています。



代表取締役社長 兼 CEO
笠置 泰孝

株式会社LexxPluss

自動搬送システムで、持続可能な産業を構築する

<https://lexxpluss.com/>



株式会社LexxPlussは、自動搬送ロボット「Lexx500」をはじめ、群制御管理システム「LexxFleet」、設備連携用IoT「LexxHub」など、ロボティクスオートメーション技術で物流センターや製造工場へ持続可能性を提供するテクノロジーカンパニーです。



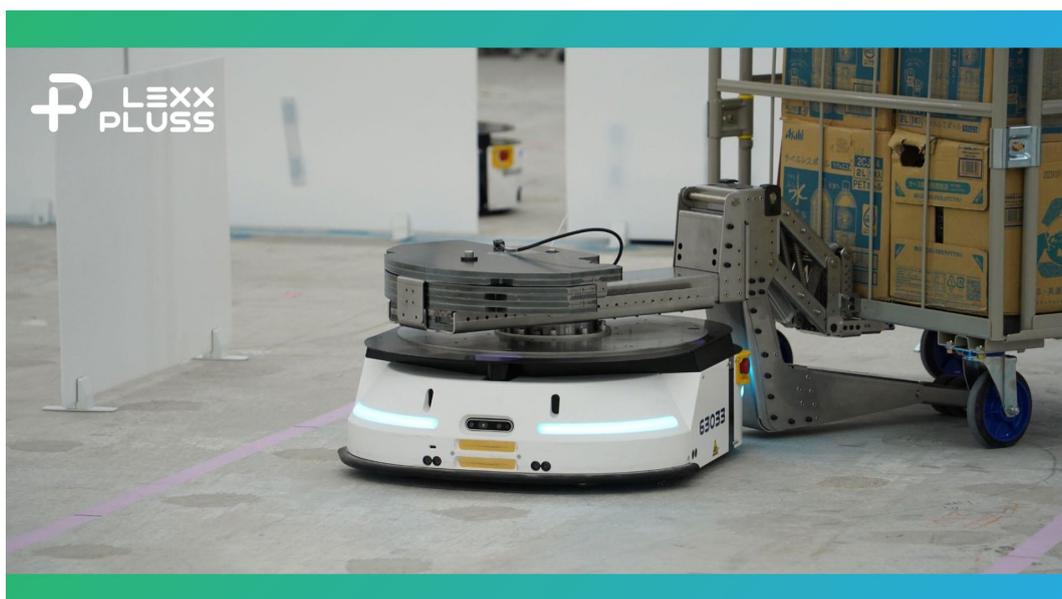
御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

LexxPlussは、持続可能な産業と持続可能な生活を目指し、グローバルな視野でビジネスを展開しています。私たちのこのビジョンに基づき、世界各地で自律的な産業インフラの構築を加速することを目標としており、これにより、地球規模で持続可能な社会を形成することを目指しています。

現代社会の基盤となる物流インフラは、世界中で人手に大きく依存している状態です。また、製造業も同様に、人的資源に対する依存度が高く、自動化の必要性が増しています。私たちは、これらの分野における自動化を推進し、世界的な効率化と生産性の向上を図ります。特に、日本や米国を始めとした、少子高齢化が進む国々や、労働力不足と賃金上昇に直面する地域において、自律的なインフラの導入は、今後数十年にわたる生活基盤を支える鍵となります。

LexxPlussの取り組みは、物流・製造業を中心に、グローバルな規模で産業の持続可能性を高めることを目指しています。これにより、私たちは世界中の人々の生活の質を向上させ、より良い未来を築くために貢献していくことを強く意識しています。

代表取締役
阿藤 将也



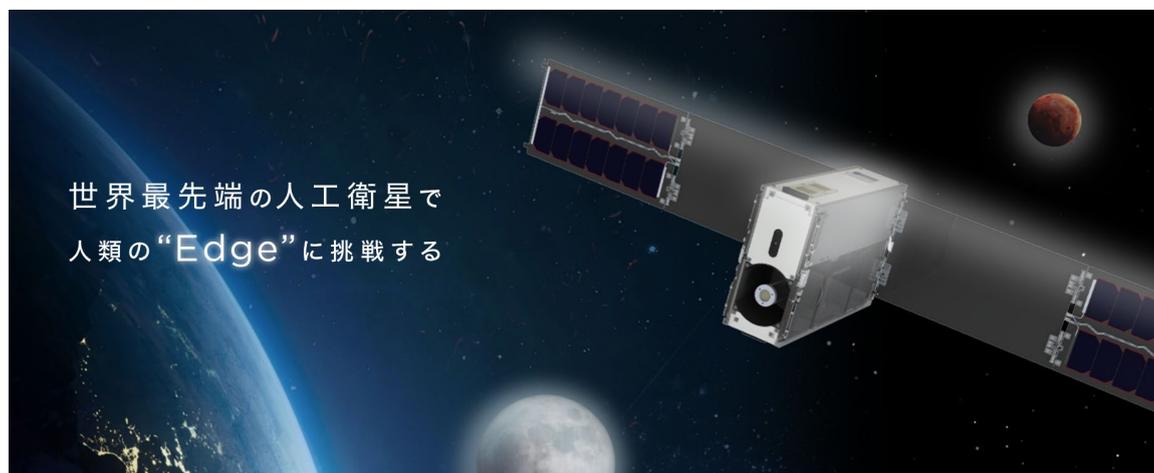
株式会社アークエッジ・スペース

超小型衛星によるコンステレーションを構築し、安全で豊かな世界へ

<https://arkedgespace.com/>



世界最先端の超小型衛星コンステレーションの企画・設計から量産化、運用まで、総合的なソリューション提供を幅広く展開しているベンチャー企業です。事業分野は多岐にわたり、衛星データ利活用によるソリューション提供、超小型衛星関連の部品・コンポーネント・ソフトウェアの開発製造、地上局の整備・運用なども手がけています。



世界最先端の人工衛星で
人類の“Edge”に挑戦する



御社のビジネスは
世界をどのように
変えますか？

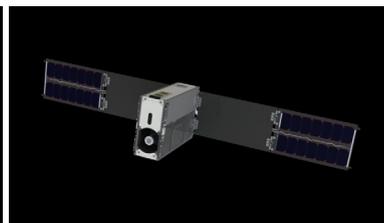
世界最先端の超小型衛星コンステレーションの企画・設計から量産化、運用まで、総合的なソリューション提供によって、「誰もが衛星によるビジネスが可能な未来を」目指しています。

IoT通信、地球観測、海洋VDES等に対応した人工衛星コンステレーションの構築を目指し、また月面インフラとしての月測位衛星コンステレーションや深宇宙探査などにも挑戦しています。

あらゆる宇宙ニーズに応える事業モデルによって、誰でも手が届く宇宙の開発利用を推進しています。



代表取締役 CEO
福代 孝良



Letara株式会社

ハイブリッド推進システムで、全人類のための宇宙インフラを構築する

<https://www.letara.space/ja>



Letaraは人工衛星などの宇宙機向け推進系(エンジン)の開発・製造・販売を行っています。当社の推進系はプラスチックを燃料にしており、高推力でありながら安全、かつ、安価なものです。当社は推進系を多くの方々にご利用いただくことで、宇宙空間の移動利便性を飛躍的に高め、人類の活動圏の拡大に寄与していきます。



御社のビジネスは世界をどのように変えますか？

宇宙分野のビジネスは飛躍的に拡大しており、すでに多くの事業者が宇宙をフィールドにして様々な事業を行っています。

しかし、現在のところ、私たち人類にとっての宇宙とは、地球低軌道を中心としたいわば「近くの宇宙」とどまっています。

地球の資源は産業革命以降、常に需要が供給を上回っており、人類の営みを維持する上で、地球以遠の遠くの宇宙に活動圏を拡大することは人類共通の課題になっています。

この課題に対処するには官民双方からのアプローチが不可欠ですが、特に民間事業者が月や火星など遠くの宇宙空間への移動を行うにはコストや所要期間、安全リスクなど、多くの困難が伴います。

当社のプラスチックを燃料にした高推力・安全・安価な推進系は、これらの困難を解決する技術が揃っています。

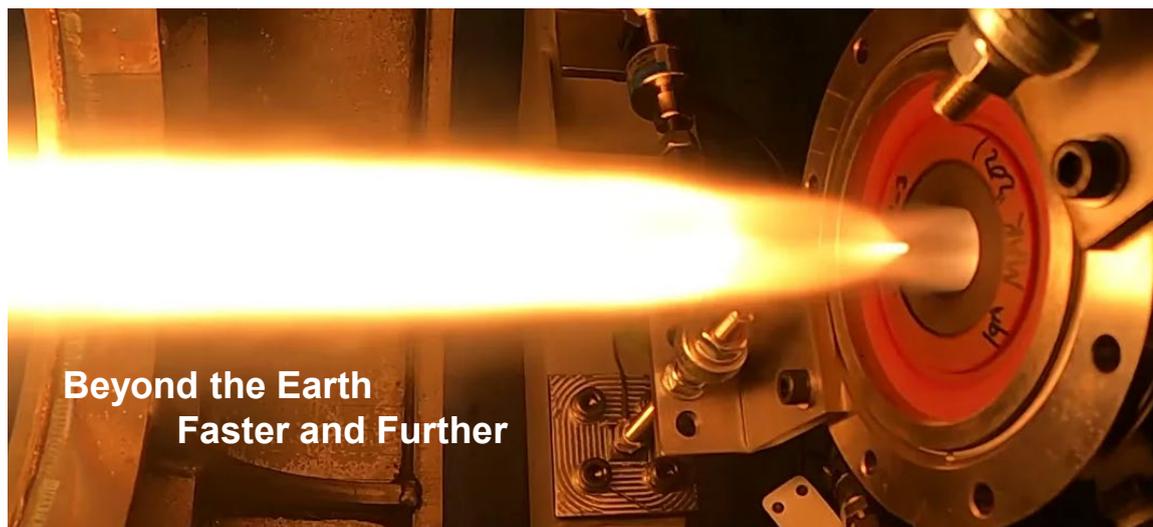
私たちLetaraは宇宙の移動利便性を高めることで人類の活動圏を拡大するとともに、人や物が広い宇宙空間を自由に、そして安全に行き交うことができる社会を築いていきます。



創業者兼代表取締役Co-CEO
平井 翔大



創業者兼代表取締役Co-CEO
ランドン・トマス・ケンプス



**Beyond the Earth
Faster and Further**

株式会社pafin

全ての web3 のインフラを目指す
<https://www.pafin.com/>



「Web3へのゲートウェイとなる金融インフラ」となるべくサービスの展開をしています。
 暗号資産の損益計算サービス「クリプタクト」では暗号資産やNFTの投資を行った方の税務上の損益を自動算出し、確定申告のサポートをしています。Web3の家計簿「defitact (ディファイタクト)」ではブロックチェーン上の資産状況を可視化し、資産管理をサポートします。
 どちらもWeb3という分散型社会においてインフラとなるサービスです。



テクノロジーの力で
 あらゆる投資判断を
 支援する



御社のビジネスは
 世界をどのように
 変えますか？

今後Web3が広がり、分散型社会が拡大していく中で、個人が直面する負担や困難をテクノロジーを駆使して解決する、Web3の金融インフラとなる企業を目指しています。

またゼロからビジネスを立ち上げる実績を多く持つ会社でもあり、損益計算サービス「クリプタクト」をローンチした際には日本やグローバルでも類似のサービスがほとんどない状態でしたが、自分たちで市場を作り上げた実績があります。Web3は0→1の勝負だらけの世界ですが、その全ての勝負を下支えするインフラを提供できると自負しています。



代表取締役
アズムデアミン



代表取締役
斎藤 岳



Go Deep with Innovation



EY Innovative Startup 2024 15 Winners



BrainTech

株式会社SandBox



EF Polymer株式会社



Circular Economy



株式会社パワーウェーブ



Energy



Energy

株式会社Yanekara





Marine Tech

株式会社さかなドリーム



株式会社EX-Fusion



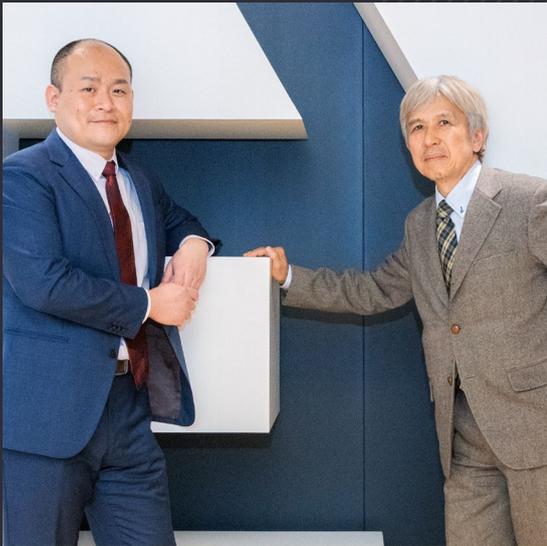
Nuclear Fusion



株式会社Helical Fusion



Nuclear Fusion



Nuclear Fusion

京都フュージョニアリング株式会社





Parent Tech

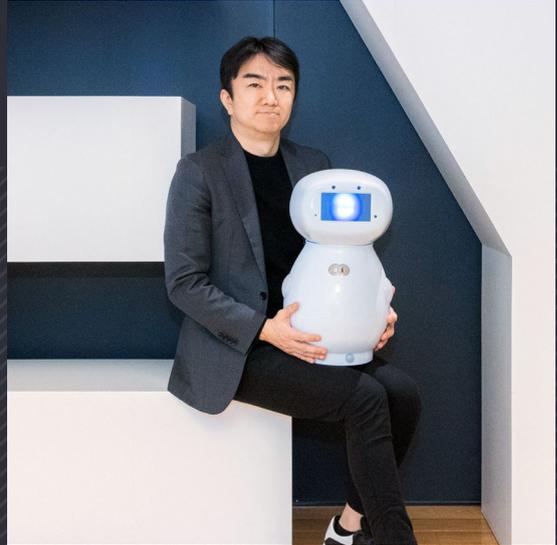
株式会社iiba



ドーナツ ロボティクス株式会社



Robotics



Robotics

株式会社MUSE



株式会社LexxPlus



Robotics





Space

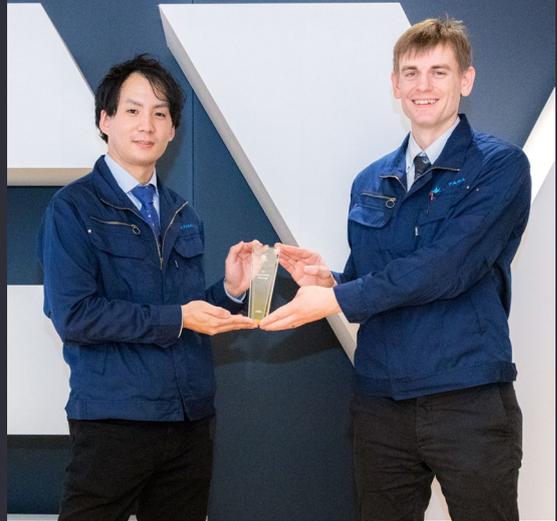
株式会社アーケッジ・スペース



Letara株式会社



Space



web3

株式会社pafin



EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス（存在意義）としています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起 (better question) をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについては、ey.comをご覧ください。

EY Japanについて

EY Japanは、EYの日本におけるメンバーファームの総称です。EY新日本有限責任監査法人、EY税理士法人、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社などから構成されています。なお、各メンバーファームは法的に独立した法人です。詳しくは ey.com/ja_jp をご覧ください。

© 2024 EY Japan Co., Ltd.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY Japan株式会社および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp

お問い合わせ

EY新日本有限責任監査法人
EY Innovative Startup 運営事務局

BD-ONE@jp.ey.com